

第三十五回北方領土の返還を求める都民大会 会長挨拶案

平成二十九年一月三十一日

○ただいまご紹介をいただきました谷茂岡でございます。第三十五回北方領土の返還を求める都民大会を開催するにあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。本日は、お忙しいところ、このように大勢の皆様にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

○都民大会には毎年多数のご来賓をお迎えいたしております。本年も、内閣府と外務省、北方領土問題対策協会からお出でいただいております。また、東京都からは政策企画局長、都議会副議長、そして都議会各会派の皆様にもお越しいただいております。ご支援に対しまして御礼を申し上げます。

○本日の講演会では、外務省より 島 桂一様 にお越しいただき、昨今のロシアの動きを踏まえた、北方領土問題に関する現状についてお話をいただきます。昨年十二月に、プーチン大統領が来日し、安倍首相と首脳会談を行ったことは、記憶に新しいところですが、本日の講演でも、興味深いお話が伺えるものと思います。

○また、昨年8月に行われた、東京都の先生方による根室への現地視察について、参加者から発表がございました。現地で先生方が何を感じられたのか、お話を大変楽しみにしております。

○この都民会議も昭和五十八年の設立以来、今年で三十四年目となります。

この間（かん）私どもは、日本国政府とソ連そしてロシア政府との交渉を見守りながら活動をしてまいりましたが、残念ながら四島返還という私たちの悲願はいまだ果たされておりません。一日も早く北方四島が日本へ帰ってくることに、そして日露両国の国民同士が、本当に胸襟を開き、信頼関係を持って交流できる日が必ず来ることを信じて、私たちの運動を進めていかなければならない、改めてそのように感じております。

○島を取り戻すまで、私たちは決してあきらめることなく、粘り強く、そして希望を持って、返還運動を推し進めてまいりたいと存じております。どうぞ、皆様方にも引き続き力強いご支援をお願い申し上げます。簡単ではございませんが、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。